

### 第1章 策定の趣旨

- ・ラピダス社の立地を契機に、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現、本道経済全体の成長に結びつけるため、オール北海道で目指すべき指針として策定 (2024年3月 ※計画期間は2024年度から2033年度の10年間)
- 👉 GXとAIや半導体・デジタル関連の産業政策を一体的に展開していく考えのもと、道内の計算基盤やフィールドを活用してAIの実証・実装を進め、地域課題の解決により、全道へ立地効果を波及させるため改訂 (2026年●月)
- 👉 国が経済・食料・エネルギーといった安全保障分野での危機管理投資・成長投資の強化を図る中、本ビジョンが掲げるめざす姿の実現にとって追い風

### 第2章 次世代半導体の意義

<h4>1 社会経済情勢の変化</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済安全保障リスク、DXやGXへの対応が課題に</li> <li>👉 国では、「AI・半導体産業基盤強化フレーム」、「GX2040ビジョン」、「AI基本計画」等によりGXやAI・半導体産業を重点的に支援</li> </ul>	<h4>2 次世代半導体の意義</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体産業再興・発展や経済安全保障の鍵となる中核技術</li> <li>👉 国は、「AI・半導体産業基盤強化フレーム」を策定 (2024年11月)、産総研による研究開発拠点整備方針を公表 (2025年12月)</li> </ul>	<h4>3 次世代半導体プロジェクト</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>👉 パイロットラインの立ち上げ開始 (2025年4月)</li> <li>👉 2nm半導体のGAAトランジスタの試作成功 (2025年7月)</li> <li>・2027年の量産開始に向けプロジェクトを推進</li> </ul>
---	--	---

### 第3章 本道の現状

<h4>1 半導体関連産業に関する本道の現状</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体関連企業: 👉 157件立地 (2025年6月現在)</li> <li>👉 道、札幌市、千歳市、北海道大学、公立千歳科学技術大学が連携し、人材育成と研究開発を一体的に推進 (2025年4月～)</li> </ul>	<h4>2 デジタル関連産業に関する本道の現状</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>👉 GX関連産業の集積、再エネを活用したAIデータセンター等の立地が進展</li> <li>👉 ソフトバンクが海底通信ケーブル計画を発表 (2025年7月)</li> </ul>
--	---



### 第4章 めざす姿 <次世代半導体をトリガーに、世界に挑む北海道>

#### めざす姿 ① 実現に向けた全体像

- ・ラピダス社の立地を契機として、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を實現
- 👉 道内各地の産業にAI-DXを展開し、その効果を道央圏のみならず、全道に波及

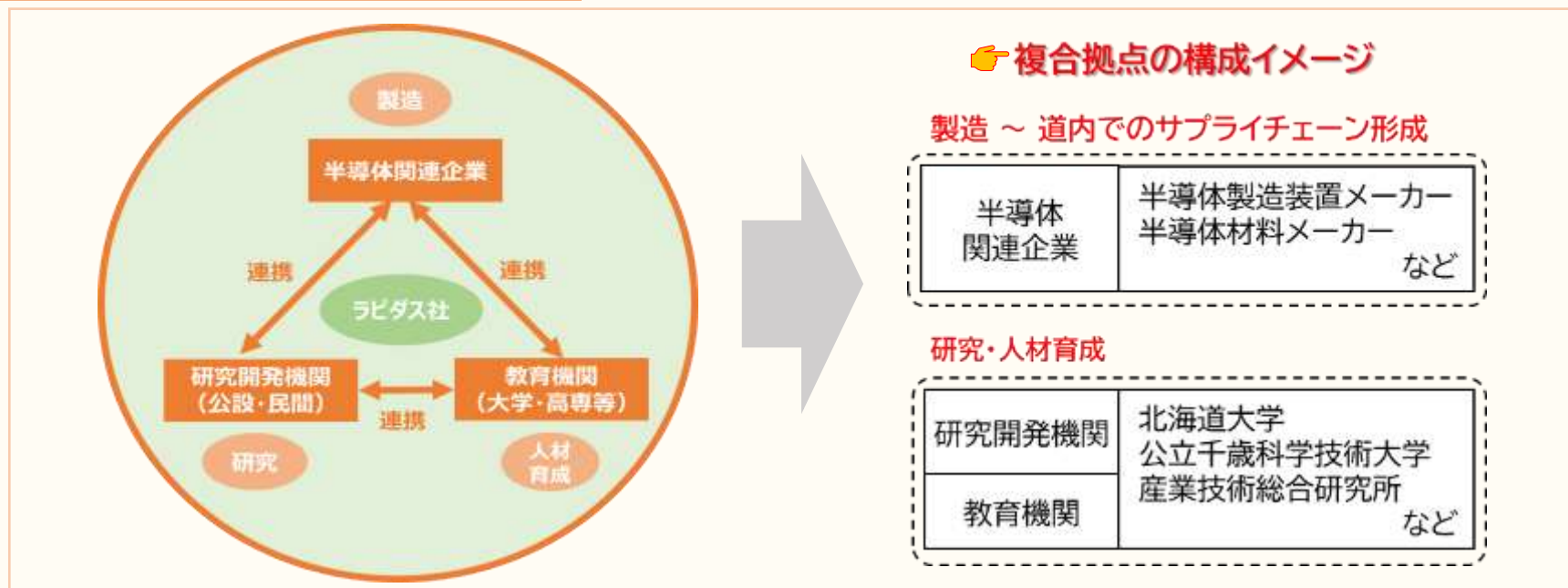
#### めざす姿 ② ラピダス社のプロジェクトの成功

- ・ラピダス社による次世代半導体の量産技術確立など、国家プロジェクトの成功が重要
- ・2027年の量産化に向けて、国・道・千歳市など各主体が、必要な支援を実施



# めざす姿 ③ 複合拠点の実現

- 道央圏で製造・研究・人材育成等が一体となった複合拠点を実現
- 関連企業と研究開発機関、教育機関が連携し、製造や産学官による共同研究開発、人材の育成・確保の機能を充実



## ＜めざす姿③の実現に向けた課題・方針・具体的な取組＞

### 【課題】

### 【方針】

### 【当初5年で重点的に実施する具体的な取組】

半導体関連産業の集積が低い

#### 1. 半導体関連産業の集積

- ① 受入環境の整備
- ② 道内企業の参入促進・取引拡大
- ③ 半導体関連企業の誘致

- ① 北海道半導体人材等育成推進協議会をはじめとする関係機関との連携体制の構築
- ① 用排水施設、周辺道路等の各種インフラ整備
- ① 道民の安全・安心の確保に向けた次世代半導体製造拠点の立地に伴うPFAS等の調査や次世代半導体プロジェクトに関する道民の理解促進に向けた取組の実施
- ① 複合拠点の実現に向けた製造、研究、人材育成等の関係者によるネットワーク化
- ② 道内企業の半導体関連産業への参入促進を図るセミナーの開催やマッチングの支援
- ③ 展示会への出展や企業立地セミナーの開催、海外プロモーションや投資家の招聘
- ③ トップセールスや企業訪問などによる半導体関連企業の誘致

産学官連携の取組不足

#### 2. イノベーションの創出

- ① 共同研究体制の整備
- ② プロジェクトの組成
- ③ スタートアップ等の創出

- ① 大学の産学連携部門をはじめとする関係機関との連携体制の構築
- ① 国内外の半導体に関する研究開発拠点の誘致
- ② 北海道発の新製品・新技術の開発に向けた研究シーズと企業ニーズのマッチング支援
- ② 半導体関連企業と大学や研究機関などが連携して行う新技術、新商品の創出など、事業化に向けた研究開発の支援
- ③ 産学官が連携した起業家育成、伴走支援、誘致の促進等によるスタートアップの創出・集積

半導体人材の不足

#### 3. 人材の安定供給

- ① 認知度・関心の向上
- ② 教育環境の整備
- ③ 人材の育成・誘致

- ① 教育機関等と連携したセミナーや出前講座の実施
- ② 北海道半導体人材育成等推進協議会や教育機関と連携した教育内容の検討・充実
- ③ 新規学卒者の道内半導体関連企業への就職に向けた企業説明会の開催
- ③ UIJターンの促進に向けた移住支援金の支給や就職相談会の開催

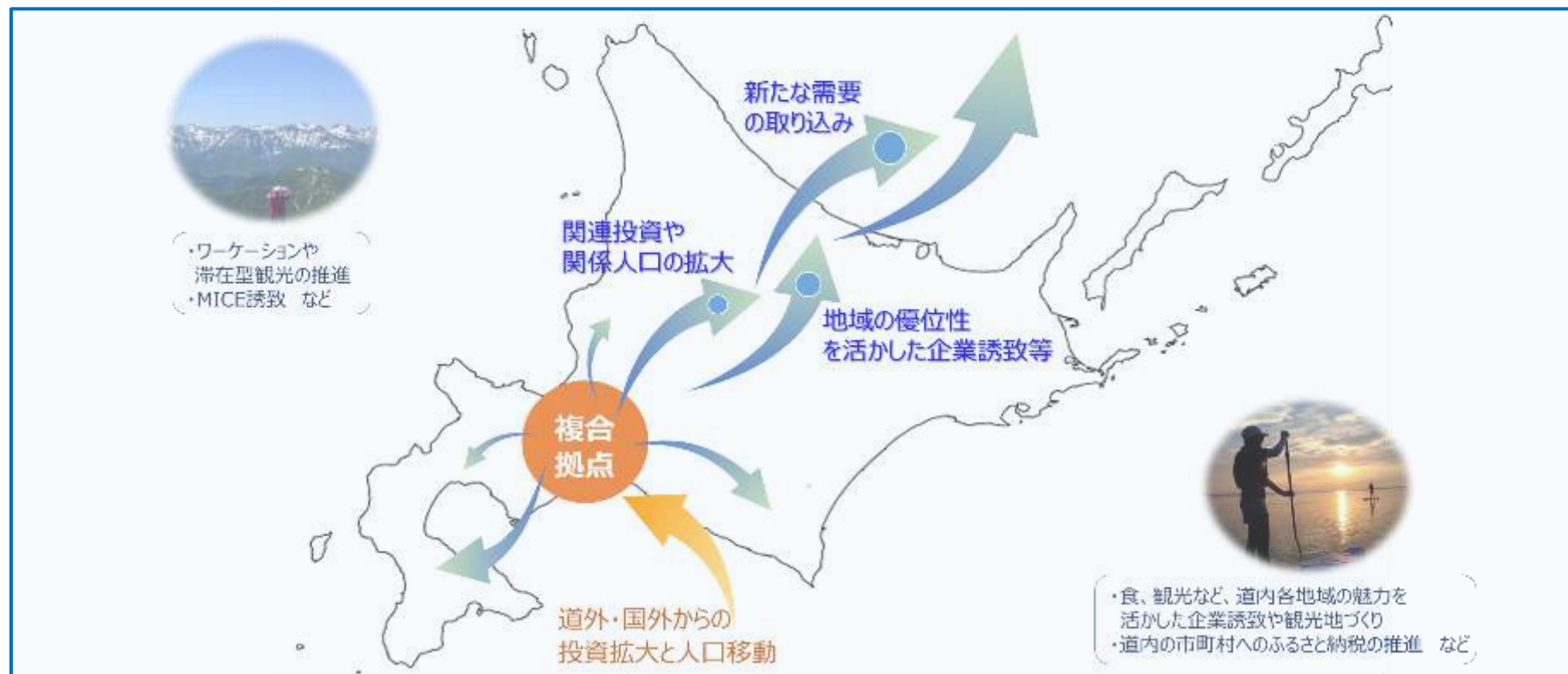
めざす姿 ④ 全道への効果の波及 ◀ 「1.各産業でのAI-DX展開」

- AIの計算基盤と多様なフィールドを活かし、AIの研究開発や実証・実装に取り組むなど、GXとAIや半導体・デジタル関連の産業政策を一体的に推進
- 地域課題の解決や新産業の創出につなげる「デジタルの好循環」を生み出すことで、道内各地の産業でAI-DXを展開



めざす姿 ④ 全道への効果の波及 「2.地域の付加価値向上」

- ラピダス社の立地を契機とした本道への投資や雇用・関係人口の拡大などの効果を各地域が最大限取り込み、地域の魅力を伸ばす
- こうした地域の魅力や優位性をもとに、さらなる企業誘致のほか、誘客やワーケーションの推進、MICEの誘致など、半導体関連産業分野にとどまらず、各地域に新たな需要を取り込むことで、地域の付加価値向上を図る



# くめざす姿④の実現に向けた課題・方針・具体的な取組

## 【課題】

## 【方針】

## 【当初5年で重点的に実施する具体的な取組】

一極集中への懸念

### 4. 地域経済の活性化

#### ① 全道各産業でのAI-DX展開

- ① デジタルインフラの整備
- ② DX関連企業の集積
- ③ 本道のAI計算基盤と多様な実証フィールドを活用した暮らしや産業のスマート化

①

- ・ 本道の冷涼な気候や再生可能エネルギーを活かしたデータセンターなどの誘致
- ・ 全道をカバーする高速通信網・送電網の増強
- ・ 北極海通信ケーブルの陸揚げの整備フラ整備

②

- ・ AIや自動運転などのDX関連企業のデジタル産業の集積に向けたセミナーや展示会の開催
- ☞ GX関連産業の集積に向けた「特区による規制緩和」や「北海道GX推進税制」、「北海道企業立地補助金」の3本柱をはじめとする各種支援策の一体的な展開

③

- ☞ AIを活用した道内の地域課題の解決を図る体制の構築
- ☞ AIスタートアップ等の企業が保有する技術シーズと地域課題とのマッチングなどによる、自動運転の通年実用化や物流等へのドローン活用といった実証試験の実施
- ☞ AIによるイノベーションの促進とAIリテラシー向上に向けた普及啓発

### 4. 地域経済の活性化

#### ② 地域の付加価値上

- ① 関連投資や関係人口の拡大
- ② 地域の優位性を活かした企業誘致等
- ③ 新たな需要の取り込み

①

- ・ 関係機関と連携した消耗品や工事、各種サービス等への道内企業の受注機会の確保
- ・ オンライン商談会や海外展示会出展など商談機会創出や北海道ブランドの発信
- ・ デジタルメディアや観光アプリ等を通じた情報発信

②

- ・ デジタル等の成長分野や食、観光など本道の強みを活かした企業誘致やふるさと納税の推進
- ・ 観光地DXへの支援など地域の魅力を活かした観光地づくりの推進

## 第5章 計画の推進管理

### 1 進捗管理と推進体制

- ・ 本ビジョンの進捗管理は、北海道次世代半導体産業立地推進本部で実施
- ・ 推進に当たり、行政や（一社）北海道新産業創造機構（ANIC）をはじめとする経済団体、企業、教育機関、支援機関等と連携し、道民の理解と共感を得る
- ・ めざす姿の実現に向けた進捗状況を定期的に把握し、公表

### 2 目標値

	指 標		目標値
方針1	① 半導体関連企業の出荷額		1兆3,162億円 (2033年)
	② 半導体関連企業の数		173件 (2034年3月)
方針2	③ 大学や高専における半導体に関する共同研究などの産学連携数 (累計)		200件 (2034年3月)
	④ 半導体に関するスタートアップの創出・集積数 (累計)		11件 (2034年3月)
方針3	⑤ 半導体関連企業の雇用者数		12,607人 (2033年6月)
	⑥ 道内理工系大学院・大学・高専卒業者及び修了者の道内就職率	大学・高専	50% (2034年3月)
大学院		25% (2034年3月)	
方針4	⑦ 半導体関連企業による道内総生産への影響額		1兆259億円 (2033年度)
	☞ ⑧ 道内におけるAIの実装に向けた実証試験の件数		44件 (2033年度)